

3

IQ120、  
社会的知能6歳の女性



しかし、そばにいて一緒に生活しているご両親だけが、「事故後、娘の人格が変わってしまった」と主張し続けました。

彼女のケースは、生活態度に節度がなくなり反社会的犯罪行為をすると  
いうものではありませんでした。意欲が乏しくなり外界の出来事に対して  
無関心・無頓着になるのとも違います。なんとなく日常生活や社会生活が  
おかしい、という形で現れました。だから周囲の人たちは理解しづら  
かったのだと思います。結果的に彼女は、ご両親は別として、この状況で  
7年間も放っておかれてしまいました。

能のテストを彼女に受けてもらいました。

すると、**前頭前野の働きが6歳レベル**だという結果が出たのです。

ちなみにテスト内容は、一般知能テストは、7歳ころまでの幼児向けのものを使い、「サリーとアン テスト」という、自閉症の診断時によく使うテストもしました。このテストは簡単な4コママンガのようなものです。

1. サリーは、自分の箱と玉を持っています。
2. アンは、自分の箱を持っています。
3. サリーは、持っていた玉を自分の箱の中に入れて、部屋を出ます。

4. アンは、その玉を箱から出し、自分の箱に入れます。
5. 箱を置いて、アンは部屋を出ます。
6. そこへ、サリーが帰って来ました。
7. さて、サリーは、玉を出そうとしてどちらの箱を探すでしょうか？

このテストは、自分の視点以外（サリーの視点）に立てるかどうかが、そして、サリーが持っている「玉は、自分の箱の中にある」という信念（心）を理解できるかどうかを、テストする課題です。つまり、相手の立場に立てたり、相手の心を推測したりする能力としての「心の理論」を調

ところが4〜5歳になると、心の理論が発達してくるため、アンの行動を見ていても、サリーの視点に立てるようになってきます。6歳になればほぼ100%の子どもがこのテストに正答します。

当時23歳の彼女のテスト結果はどうだったと思いますか？

4歳未満の幼児のように「玉が入っている（アンの）箱を探す」と答えただのです。

このテストは6歳でも誤答する子どもが少数ながらもいますから、ひいき目にみても（彼女には大変失礼ですが）、心の理論は6歳レベルというところになります。

監督の能力が高ければ、選手たちの能力が多少低くても試合に勝てます。選手たちを育成することにも監督が重要ですし、戦略や戦術を練ったり、対戦チームのことをよく知って戦術を適切に変えたりすることも監督の重要な役割です。

言語的知能や空間的知能、推論的知能（＋他の多重知能）は、こうした選手たちに該当します。

これらの選手たちを統合しているのが一般知能（研究者によつては一般流動性知能とも言います）です。

一般知能が低いと、他の知能がいくら高くても人生で「勝つ」ことは難

前頭前野に負ったダメージのせい、その総合的能力としてのH<sub>2</sub>Q（監督の能力）は、心の理論や一般知能、そしてワーキングメモリを含めて、軒並み6歳レベルまで低下してしまっただけです。

いくらIQが120あっても、6歳レベルのH<sub>2</sub>Qでは、社会に出たり勝てたりするわけがありません。サッカーチームの選手たちの能力がいくら高くても、6歳の監督では試合に勝てない、いや、そもそも試合に出ることすらできないのと同じです。

つまり彼女は、交通事故で前頭前野にダメージを受けたことで、脳というチームが崩壊してしまっただけです。彼女の「夢」だった医学部にも行け

なくなつてしまいました。

たとえばIQが120あつても社会に対応していくことができないのですから、「夢」をかなえることはできません。

本人は、自分でもどこかおかしいと思つていますが、それでも平気です。行動に移せないことがストレスになることはありません。それも分からぬのです。ですから、本人はいたつて明るく、自分のどこがおかしいか自覚を持ってないのです。